

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570103152
法人名	医療法人 岡田整形外科
事業所名	グループホーム楽楽
所在地	宮崎市大字浮田3321番地 (電 話) 0985-62-3280
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成19年8月27日

【情報提供票より】(19年 8月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 1 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.25 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1階建ての 1 階 ～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(50,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(8月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 70 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	徳田内科 福澤歯科 岡田整形外科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市内の田園風景の残る静かな利便性の良いところに位置している。母体の医療施設が隣接し、医療と連携を取りやすくしている。職員は、利用者の力を最大限引き出そうと、好きな畑仕事や野菜作りを見守り、食事作りでは調理から後片付けまで課程を楽しみ、自信がもてるように和気あいあいとして支援している。又、週2回のリハビリ体操に医療施設まで職員が付き添い、利用者が連れ立って歩いて行く姿には、ほほえましく普段の家庭で見る外出光景であり、家族の温もりが伝わってくる。利用者の笑顔に職員のさりげない支援・利用者本位の質の高いケアの実践が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について:介護計画への入居者、家族の意見の反映についてケアカンファレンスのなかで十分に検討され改善されている。権利義務の明示(説明文書、契約書に分かりやすく示して説明)については、今後の取り組みとなっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は自己評価及び外部評価に対して会議の中で話し合い事前にビデオ学習をするなど積極的な取り組みがされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地区の自治会長、民生委員、市の担当職員、包括支援センター職員、家族、運営者、管理者、職員の構成メンバーで1回/3ヶ月開催している。運営委員会で出された意見や意向については前向きに検討し、サービスの向上に取り組む姿勢が見られる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は家族の意見・意向・苦情について面会時や電話連絡時「何かないですか」と積極的に聞く姿勢を持って対応している。意見等寄せられたときは管理者、職員で十分に検討し、改善策を持って家族に必ず返事をするようにして記録に残し、運営者及び理事長に報告する体制を整えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所は地域の行事や祭りに参加させて貰ったり、利用者の希望があるときは近所のスーパーに買い物に出かけたりしている。また徘徊の時など地域の方から通報していただけるようお願いしている。事業所は地域の中学生のボランティアを受け入れたり、事業所が主催する夏祭りにも地域の方に来ていただくなど地域との連携を図るように努力している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・安全・地域の中で継続して生活できるように、心のこもったケアの実践」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム部門会議・スタッフ会議の中で管理者は職員と理念に基づくケアが実践できているか話し合い、確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加させて貰ったり、事業所の催しに参加して頂いたり、中学生のボランティアを受け入れるなど地元との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は事前に外部評価についてビデオ学習を行うなど積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元の自治会長、民生委員、包括支援センター職員、市担当職員、家族、事業所の運営者、管理者、職員の構成メンバーで1回/3ヶ月実施している。出された意見要望について積極的に取り組もうとしている。	○	地元消防団や警察にも参加の呼びかけて運営推進会議さらに充実し活性化することを希望したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の主催する研修会など積極的に参加したり、事業所の意見を聞いてもらうなどサービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成して暮らしぶりや行事予定を知らせている。健康上の問題があるときにはその都度電話で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、意向を、管理者・職員は積極的に聞こうとする姿勢がみられる。面会時、電話のときに「何かないですか」と常に声かけをしている。出された意見や意向について管理者、職員は会議にて検討をし家族に必ず返事をしている。1回/月介護相談員の訪問も受け入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者にダメージを与えることを配慮しながら、そのことが利用者にとってプラスになるよう情報交換など蜜に行うなど配慮して対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成について新人教育プログラム及び事業所内外の研修を年度計画を立てて計画的に実施している。研修報告書を以って会議の中で報告する体制が整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の研修会の場を利用して各々事業所の情報交換や意見交換を行っている。また他施設をお互いに訪問して学習したことをサービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族と事業所の見学に来ていただき、初対面での利用はしないようにしている。アセスメントを十分に行い生活背景を把握して『コーヒーを入れるのが得意・食器洗いができる』など住み替えによるダメージを最小限度にできるように家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とする畑仕事や、食事の盛り付け、食器洗いなど自主性に任せて、できることを楽しんでしてもらるように職員は見守り、一緒に生活してしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるアセスメントを行い利用者のニーズに添った支援を行うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本意、家族の意向に添ったプランを立案し、ケアカンファレンスの中で検討したプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングはスタッフ全員で1ヶ月毎におこなっている。更に健康状態に変化が起こった時はその都度計画の見直しを実施している。定期的な見直しは3か月に1回としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診の付き添い、併設病院でのリハビリ体操、音楽療法士の訪問が1回/月、家族の方のボランティアでピアノ演奏会、昼食会1回/月、夏祭り等と多様な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医との連携を図りホームでの情報提供なども行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が予測される時期に家族と話し合いを持って家族の希望を最優先に対応している。母体病院と連携し、訪問診療、訪問看護の体制が整えられ終末期の対応も可能にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけやさりげない対応が実践されている。個人情報等の記録物については第三者の目に触れない場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ、朝起きが苦手な方には無理強いしないで遅食にしたり、日々の関わりの中から利用者の希望をくみ取り、外出や買い物など希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は一緒になって食材の切り込みや調理、味見、盛り付け、配膳、下膳、食器洗浄等の食事に関わる全ての作業を、ごく自然に家庭に居るときと同じように楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のタイミングで入浴支援を毎日行っている。夜間の入浴を好まれる方には夜間の入浴も可能にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所の中でその人にあった喜んで出来る役割作りを引き出した支援や、買い物(食べ物の希望が多い)、ドライブなど気晴らしや楽しみごとを積極的に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望があれば散歩や買い物など外出する機会を多く持つように支援している。2回/週は母体の病院のリハビリ体操に利用者と職員は連れ立って徒歩で往復している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉等の構えもなく駐車場から玄関、勝手口に至るまで常にオープンにされた事業所である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回/年の防災訓練を昼間と夜間を想定して実施している。防災マニュアル・緊急時の連絡網等も整備している。	○	防災訓練を実施するときに近隣の住民の参加を呼びかけて災害に対する協力依頼等をしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事の提供をするために栄養士のアドバイスを受けている。食事量のチェックについては個人の記録に残している。水分量は毎食時、食間、夜間にも摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは季節の花が出迎えてくれる。リビングは広々として利用者がゆっくりくつろげるように利用者の作品や外出時の写真が要所に飾られている。テレビ、ソファが置かれゆったり過ごせる空間がある。廊下、トイレ、浴室には安全性を確保するために手すりが施されている。キッチンを利用者と職員が一緒に調理や食器洗いがしやすいようにサブ調理台を設えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家具、使い慣れた調度品の持込がされ、整理・整頓が行き届いて居心地良く過ごせるように工夫している。		